

「さあ、みんなで、考えよう」

我が柘植の青年や中学生の発信から考えよう！

こんかい つうしん がつ にち ど おこな だい かいみ えけんじんけん どう わきょういくけんきゅうたいかい にちめ
今回の通信は、10月13日(土)に行われた第52回三重県人権・同和教育研究大会1日目での
じもとほうこく がつよつか にち おこな つげちゅうがっこうぶん かさい ねんせい げき つげ せいねん ちゅうがくせい かつ
地元報告、11月4日(日)に行われた柘植中学校文化祭での3年生の劇で柘植の青年や中学生から語
られたことばから考えたいと思います。

第52回三重県人権・同和教育研究大会 地元報告より

たいかい とし み えけんない ちいき か かいさい ほんねん だい かいたいかい ほんねん
この大会は、年により三重県内の地域を変えて開催され、本年が第52回大会になります。本年は
いがし なぼりし たいかいかいじょう たいかい にちめ まいとし じもとくべつほうこく おこな ほんねん
伊賀市・名張市が大会会場となりました。大会1日目には、毎年、地元特別報告が行われます。本年
か こ みらい おも つむ わたし あと つづ なかま いが す
は「過去から未来へ思いを紡ぐ ～ 私たちから後に続くすべての仲間へ～」をテーマに、伊賀に住む
せいねん ぶらくもんだい き ききとり おこな じぶん おも かさ
青年たちが部落問題について聞きとりを行ったことに自分たちの思いを重ねて、ゆめドームうえの
じもとくべつほうこく おこな つげ こうこうせい せいねん にん わかもの た
で地元特別報告を行いました。柘植からも高校生から青年まで10人ほどの若者がステージに立ち、
おも ほんしん じょう ほんしん おも ぼつすい けいさい
思いを発信しました。ステージ上から発信されたことばや思いを抜粋で掲載します。

い ちいき ぶらくしゅつしん こうこうせい せいねん う そだ じぶん ちいき だいせんばい き
伊賀地域の部落出身の高校生と青年たちが生まれ育った自分たちの地域の大先輩たちから聞き
とりを行いました。そこで見聞きし、気づいたこと、学んだことを今、「自分なり」で伝えていき
ます。でもちょっと待ってください。「部落問題って部落出身の人たちだけが考える問題です
か？」

ぶらくしゅつしん ひと ぶらくもんだい だれかわいかな はな しょうがっこう
部落出身の人にとって部落問題は、誰彼構わず話せることじゃない。ぼくは小学校のころから
ぶらくしゅつしん とも いつしよ ちくがくしゅうかい まな しょうがっこう とも じぶん
部落出身の友だちと一緒に地区学習会で学んできた。でも小学校のとき、その友だちは自分が
ぶらくしゅつしんしや ぶらくさべつ う ぶあん かん う あ
部落出身者であること、部落差別を受けるかもという不安を感じていることを打ち明けてくれた。
じぶん なに かせ ことば
そのとき、自分は何を返せばいいのか、言葉につまった。

みなさんに聞きたいです。部落問題の当事者って、一体誰のことですか。部落問題を「自分ごとにする」って、何をどうすることですか。



70年ほど前の部落では、子どもたちが小さい頃から家の手伝いや仕事をするのが当たり前で、当時の差別の厳しさや経済的なしんどさは、子どもたちから教育を受ける権利を奪っていきました。「非識字というのは、人間らしい生活を営む権利を奪ってしまう重大な人権侵害ではないか」と考えた地域の人たちが、

識字教室を立ち上げていきました。識字生のおばあちゃんたちが幼少期の体験の一つひとつについて思い起こし、文字にしたらには、差別へのくやしさを怒りが表れていました。そんななかで、自分の生い立ちを作文にまとめたり、人生で初めて年賀状を出すことができたり、初めて孫に絵本の読み聞かせができたりしていった。何度も何度も書き直しながら、じっくりゆっくり時間をかけて。

おばあちゃんたちから文字を奪ったのは先生やったけど、「文字を取り戻すのに一緒に活動したのも先生や」って聞いたよな。おばあちゃんら、文字をなかなか覚えられへんくて、雨の日も雪の日も泣きながらでも識字にきたって言うてた。

ぼくは人権センターで子どもの勉強を見てたとき、「これ教えて」って子どもに言われた。でも、ぼく、勉強してこーへんだから、ちゃんと教えられへんかった。だから、勉強しなおそうと思ってる。おばあちゃんら、一文字一文字めっちゃ時間かけて字の勉強したって言うてたよな、ぼくもめっちゃ時間かけて勉強してるとこやねん。



確かに、俺も仕事するようになって、資格とか免許とらなあかんから、勉強は必要やって今になって思うわ。部落差別をどうやってなくしていくかも、やっぱり勉強しやな見えてこーへんし。

おばあちゃんらが必死に生きてきたことを聞かせてもらったからには、今度は俺らが子どもたちに話せる自分になっていかなあかん。

柘植中学校文化祭3年人権劇

『STAND UP 私たちの足跡』より

きょう わたし 今日、私 たちはこのステージで ちゅうがっこうせい 中学校生活の へんか や 苦悩の 一部を しょうかい 紹介します。 わたし 私 たちは17人は 進路実現に向けて 歩きつづけてい きます。



てんのう じ ちゅうがっこう や かんがつきゅう や かんちゅうがっこう しき じきょうしつ 天王寺 中学校夜間学級 (夜間 中学校) や 識字 教室のおばあちゃんたちに 言われたことは 「毎日 大事に、しっかりと 勉強 しようといた方がええで。後悔 せんように。」 なんか 重みのあるメッセー ジやった。夜間 中学校では いろんな 生き方が あった。知らないことが たくさんあって、喜んで 勉強 してると言ってた。それを 「未知との遭遇」 って言ってくれた。

げき 劇のなかに登場 した夜間 中学生(夜 中生)のことは

がくせい べんきょう しごと わたし じだい まいにち 〇学生は 勉強 が仕事です。私 たちの時代は 毎日生きていくことが 最 優先 やったから、勉強 でけへん かったけど、今の時代は 食べる ものは何でもある。今 勉強 しかんと 歳とってから 絶対に後悔 するで。



べんきょう あたら し たの わたし 〇勉強 してわからんことが わかったり、新しいことを たくさん知れたりして 楽しいで。私 にと っては すべてが 未知との遭遇 なんやわ。今までいかに 適当に 文字を 書いてきたか、生きてきたか、 この夜中 (夜間 中学校) に来て ようわかる。毎日、発見 することが たくさんあって 勉強 して 楽しいで。

わたし とし わす おお わす おも ひとり かんばん 〇私 たち歳やから 忘れることも 多くて、「また 忘れた」 って 思うこと ばかりやけど、一人でも 看板 や 電車の時刻 表 見ながら 行きたい ところに行けるようになったのは 勉強 の成果 やと思うな。

わたし まいにち せいかつ かね しごと こうこう い 〇私 は 毎日の生活のため、お金の ために できる 仕事をしてきたんやけど、高校 に行ったら あなた が やりたい こと 見つかるって。だから、絶対に 高校は 行ってほしい と思う。あなたの 人生は あなたのもの。自分の 人生だから 後悔 しないように。

じぶん じぶん き かつこう おも し ぜん だ 〇「自分 は自分」 気に しゃんときさ。「いい 格好を しようとしなくていい」と 思うで。自然 を 出し たら、みんな 自然 について きてくれる。そういう なかまが あんたの 周りには いると思うよ。



がつ しき じ がつきゅうせい こうりゅうかい おこな 10月に しらさぎ 識字学級 生との 交流会 を 行いま した。私 たちは そのときに 部落 差別が あった 現実を 聞 き取りました。「死ぬまで 勉強 やで」「今、勉強 しかんと 絶対に後悔 する」と 熱いメッセー ジを いただきました。そして 文字を 学んで 差別に 気づいたこ

と、いいときも悪いときも、なかまがいることを改めて感じる交流会でした。

私は「部落問題を考える中学生の集い」に参加して、「部落問題は身近にある」というテーマでみんなと考えたとき、たとえ差別を直接受けなかったとしても、不安な人がいることを知って差別の怖さに「はっ」とした。そして、伝える人がいるということは、返す人の存在が大切だと思った。私は勇気を出して伝えてくれたことに対して、聞くだけじゃなくて、自分に置き換えて、自分のことばで伝えることができたらいいなって思ってる。だから普段から責任をもって自分で考えることを大切にしていきたいと思う。



中学生や青年が語った言葉を抜粋して、可能な限りそのまま掲載しました。みなさんはこれを読んで、どんなことを考えたでしょうか。自分のどんなことと重なったり、どんなことを見つめ直したでしょうか。みなさんは自分が大事にしていることや本当は分かってほしいと思っていることを、家族や隣にいる人、柘植とともに暮らす人に伝えられていますか。わかってもらえていますか。柘植には熱い思いを持った若者がたくさんいます。語り合い、伝え合い、そしてつながりをつくっている若者がたくさんいます。みなさんは近所の若者と人権についてや自分の生き方について話をしたことがありますか。話をすれば、きっと若者から学び、自分のことを見つめ直す機会がたくさん得られると思います。「きょうびの若い者は・・・なかなかやるなー！」

文責・橋本浩信

11月、12月の講演会や研修会の案内

- 11月 9日(金) いがまち解放講座 (19:30 ~ 21:00) いがまち人権センター
「外国人定住者に起こる生活困窮への支援・対策と今後の課題」(青木幸恵さん) [多文化共生ネットワークエスペランサ]
- 11月 13日(火) 青山文化センター人権・解放講座 (19:30 ~ 21:00) 青山文化センター
「外国人の人権って私たちの人権」(青木幸恵さん) [多文化共生ネットワークエスペランサ]
- 11月 20日(火) 部落解放・人権大学講座 (19:30 ~ 21:00) ゆめぼりすセンター
「差別意識のカラクリ」(奥田均さん) [近畿大学人権問題研究所]
- 11月 25日(日) おおやまだ人権フェスティバル (13:30 ~) 大山田農村環境改善センター
ひとり芝居「君をいじめから守る」(福永宅司さん) [子どもの学び館]
- 12月 1日(土) しまがはら人権のつどい (13:30 ~) 島ヶ原会館
「すべての人にやさしい避難所をめざして」(服部亜龍さん) [フレンテみえ]
- 12月 2日(日) あやま人権フェスティバル 2018 (13:30 ~) あやま文化センターさんさんホール
「輝けいのち ~知的障がいの子と共々生きていこう」(辻イト子さん) [みかん山プロダクション]
- 12月 7日(金) 差別をなくす いがまちの集い (19:30 ~) ふるさと会館
「母娘で問うた部落差別」(坂田かおりさん・瑠梨さん・愛梨さん)
- 12月 8日(土) 2018人権のつどい (13:30 ~) 青山ホール
「みんな同じいのち」(三浦明利さん) [龍王山光明寺住職]
- 12月 9日(日) 人権を考える市民の集い 2018 (13:30 ~) 伊賀市文化会館
パネディスカッション「部落問題と若者たち」(武田緑さん・三木幸美さん・中村尚生さん)
- 12月 9日(日) 柘植地域人権啓発合同フィールドワーク (水平社博物館・奈良市南人権文化センター)
- 12月 21日(金) 部落解放・人権大学講座 (19:30 ~ 21:00) ゆめぼりすセンター
「心の窓を少し開くことから」(明石一朗さん) [関西外国語大学]